

令和4年度社会医学実習テーマ

1. 診療ガイドラインと公衆衛生 - Minds の取り組み -

多くの疾患では診療ガイドラインが作成され、患者と医療者が共に治療方法を考える際に活用されている。Minds(マインズ)は EBM 普及推進事業の愛称であり、診療ガイドラインの作成支援、患者・市民の支援を中心に活動している。本実習では、Minds を通して診療ガイドラインの成り立ち、活用等について学習する。

2. SDGs 未来都市に向けた取り組み

富山市をはじめ、SDGs 未来都市に向けた様々な取り組みが行われている。本実習では、わが国の自治体レベルでの SDGs の取り組みを概観し分析を行う。

3. 母乳育児をめぐる近年の動向

世界保健機関(WHO)とユニセフ(UNICEF)は、産後6ヶ月までの完全母乳育児、可能なら、2年以上の母乳育児を推奨している。厚生労働省および富山県も母乳育児を推進しているが、本グループでは、母乳育児のメリット(デメリット)、各国(日本)における実施率、理想的な実施方法、SDGs の目標達成とどのように関わるのか、といった点について文献調査する。これにより、母乳育児をめぐる近年の動向を把握する。

4. EZR を用いたコホートデータの解析実習

近年、統計解析を使う場面は益々増えているが、解析を独力で一からマスターするのは困難である。そこで本グループでは、その導入として、無料の統計ソフト「EZR」を自分のパソコンにインストールし、教科書に載っている種々の解析を行う。今回の実習では、例として、Hernán & Robins (2021) の「Causal Inference: What if」の教科書で使用されている NHEFS の縦断調査データを取り上げる予定である。

5. スマートフォンやウェアラブル端末を用いた身体活動研究に関する文献調査

これまで身体活動量の客観的評価は、加速度計や歩数計を用いた機器装着法、エネルギー消費を評価する二重標識水法などにより行われてきた。近年、スマートフォンやウェアラブル端末が急速に普及し、個人の身体活動量を容易に評価できるようになり様々な研究で用いられている。本グループでは、スマートフォンやウェアラブル端末を利用した身体活動研究を文献調査し、医療・健康分野への活用の動向を展望する。

6. 身体活動量アップのための杉谷キャンパスマップ制作

2020年に世界保健機関(WHO)が発表した身体活動および座位行動に関するガイドラインによると、一般的な成人は1週間で150分~300分の中強度の有酸素運動を行うことを推奨されている。本グループでは、杉谷キャンパス内で利用可能な運動施設やウォーキングルートを調べ、ガイドライン推奨値をクリアできる身体活動方法を学生・教職員に提案する。

7. 高齢者のウェルビーイングの向上を目指して:一般健診結果からの検討

経済的な豊かさだけでは人は幸福にならない。そのためウェルビーイングという概念が注目されている。ウェルビーイングは精神的、身体的、社会的に健康な状態と定義される。高齢者のウェルビーイングにはどのような要因が関与しているか。後期高齢者の一般健診データから明らかにする。

8. 高齢者のウェルビーイングの向上を目指して:歯科健診結果からの検討

身体的な健康の中で、近年特に注目されているのは「歯の健康」である。齲蝕や歯肉炎があると心筋梗塞などの疾患が増加することが知られ、また、低栄養を介した虚弱など健康寿命の低下をもたらす。歯の健康の維持のために何ができるか、後期高齢者の歯科健診データから明らかにする。

9. 健康政策における幸福度研究の展開

富山県では「Well-being」の成長戦略を掲げ、今後の県民の幸福度をあげていく施策が展開されていく。Well-being は「身体的、精神的そして社会的に Well-being な状態」という健康の定義で使用された用語であり、さまざまな分野で研究が進められている。今回、Well-being 研究を文献等で概観・整理し、保健・福祉の立場からどのような政策が地域の Well-being に重要かという課題を検証する。

10. 自殺率と幸福度指数の関連

富山は主に幸福度は高く評価されるが、自殺率も高い県に位置付けられる。また、自殺研究においては、住宅地の延べ床面積の広さが自殺率と相関していることが言われており、富山県は 1 位となっている。質的な研究からは幸福度が高い地域よりも低い人が少ない地域が自殺希少地域とも言われる。このように一件幸福度と関連するが、自殺の要因となっている因子を既存データから分析し、幸福度指数と自殺率の関係を検証する。

11. インターネット依存に関するアンケート調査と文献的考察

インターネットの過剰利用で健康を損なう人やネット依存が増加している。この実習では、Google form を利用したネット依存に関するアンケート調査と文献的考察を行う。

参考文献:授業評価・市場調査のための「アンケート」調査・分析ができる本 秀和システム 岩佐英彦 ¥1980 (Kindle 版もあり)

12. デジタル機器の学習効果に関するアンケート調査と文献的考察

2020 年より GIGA スクール構想が開始され、すべての小中学生にタブレットが配布された。多くの利点が強調される一方で、デジタル機器による学習効率の低下や目への悪影響がわかってきている。この実習では、Google form を利用したデジタル機器による学習効率に関するアンケート調査と文献的考察を行う。

参考文献:授業評価・市場調査のための「アンケート」調査・分析ができる本 秀和システム 岩佐英彦 ¥1980 (Kindle 版もあり)